

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 森の宮福祉会	代表者	石塚 克哉	法人・事業所の特徴	基本理念「笑顔・まごころ・ハーモニー」を念頭に寄り添う介護、支援を職員一同取り組んでいます。「通い」を中心に「訪問」「泊り」を組み合わせたサービス提供を行っています。音楽を取り入れたリハビリやレクリエーションにも力をいれています。
事業所名	小規模多機能型居宅介護 ハミングベル緑橋	管理者	小栗 健太		

出席者	コロナ禍のため書面にて報告を行い、意見を返信してもらう方式で実施。
-----	-----------------------------------

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	業務内容の見直しを行なう。業務の効率化を図れる所は改善し、限られた時間の中での業務の質を変えていく。	業務内容や働きやすい環境になるように話し合い、実践できている。物品のレイアウトなどを変え通路を多くとったり、危険個所をなくしたりすることができた。	利用者アンケートを定期的にとるのは大切だと思います。丁寧に対応してもらえているかは認知症でもわかるとありましたが重要な意見だと思いました。	アセスメントシートなどの様式を変更することでより深く利用者のことを理解できるようにし、状態にあった支援を行えるようにする。
B. 事業所のしつらえ・環境	引き続き、利用している方が落ち着け、安全に過ごせる環境作りを行うために見直しを行う。	ハンガーラックの位置や、カウンター前の棚の位置を変え、利用者の活動スペースをより広くとることができたと共に危険個所もなくなることができた。	コロナ禍のため施設来所機会が少なく、書面開催のため特筆する意見はない。	感染症対策を踏まえて環境の再確認し、安心安全に過ごしてもらえるように改善する。
C. 事業所と地域のかかわり	地域との関わりと大切にし、地域と協力を得て行事を行なうことや、地域の行事に多く参加する。	コロナ禍のため地域と関わる行事の開催ができなかった。	地域行事などが制限され参加が難しい状況になっている。その中でどうやって地域と繋がっていかけるかを考える必要がある。	感染症の感染状況を踏まえて地域との関わりを検討していく。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	利用者と共に地域のイベントに参加したり、地域へのスーパーなどに外出を行ない、地域との関わりを絶やさないようにする。	コロナ禍のため地域との関わりを持つ機会が減ってしまった。	紅葉ドライブなど外出行事も工夫しながら行っている。地域イベントの参加が難しい状況だが落ち着いたら地域に出てつながりができればいい。	感染症の感染状況を踏まえて地域との関わりを検討していく。
E. 運営推進会議を活かした取組み	引き続き、事業所の取組みを分かりやすく報告し、会議内で出た改善等の意見を参考にし、事業運営を行っていく。	コロナ禍のため集まっての会議が開催できず書面のみでの開催になった。	事例検討は個人情報もあるので運営推進会議では難しい。一般化したケース、地域課題としてなら検討するのもいいかもしれない。	感染状況により集合開催か書面開催かを柔軟に対応する。書面開催の場合は、写真を使用するなどよりわかりやすい内容にしていく。
F. 事業所の防災・災害対策	引き続き、消防訓練と共に水害の避難訓練も実施し防災の対応を都度見直していく。備蓄についても整えていく。	コロナ禍のため地域との合同の消防訓練は実施できなかった。事業所のみでの訓練は実施している。	地域の防災訓練は中止でした。	消防訓練や災害時の避難訓練に加え感染症を想定した訓練を計画する。